

こうやまていえん

向山庭園の歴史

昭和55年5月1日に開園した向山庭園は昭和4年から6年にかけての浜口内閣時代の江木鉄道大臣邸であったといわれ、付近の住宅地は昭和53年12月1日に練馬区の「みどりの安全モデル地区」の第一号に指定された城南住宅として知られ、その閑静な佇まいは豊かな緑と調和し区内有数の住環境を誇っています。

この地は大正12年の関東大震災まで木や草におおわれたところでしたが、その直後に宅地化の話が進み、13年に40余名の名で誕生した城南田園住宅組合の借用地となりました。しかし当初は電灯を敷く見通しも立たず道らしい道もなく、せいぜい草地を耕し家庭菜園として利用する程度だったといえます。宅地化が進められたのは昭和2年の豊島園駅開通後のことでした。またこの付近から北側の豊島園にかけての一带はかつて矢の山といわれ、中世豊島氏の一拠点であった練馬城跡としても知られています。豊島氏は坂東平氏の流れをくみ、秩父から荒川河口に移って勢力を広げた一族でした。北区豊島の清光寺、あるいは中里の平塚神社の地は豊島氏発祥の頃の伝説地として有名です。その後一族からは葛西、宮城、滝野川、板橋、志村氏などが出て荒川流域から石神井川に沿う地域に栄えました。

14世紀の半ば頃には石神井川の地域は一族の宮城氏から豊島宗家が引き継ぎ、以降太田道灌と戦って敗れる文明9年（1477年）まで豊島氏の本拠地となりました。江古田、沼袋の地で道灌と最後の合戦を試みた時には、練馬城からも軍勢がくり出されたことが伝えられています。

練馬城がいつの頃に築かれたのかははっきりした資料はありませんが、伝説に豊島氏九代泰景の弟泰村が在城したと伝え、豊島氏滅亡後には海老名左近という者が居城したともいわれます。北に海

老谷戸という旧地名があったことと関連させる地名伝説ともなっています。

